

名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅間）*に関する沿線住民アンケート調査結果の概要

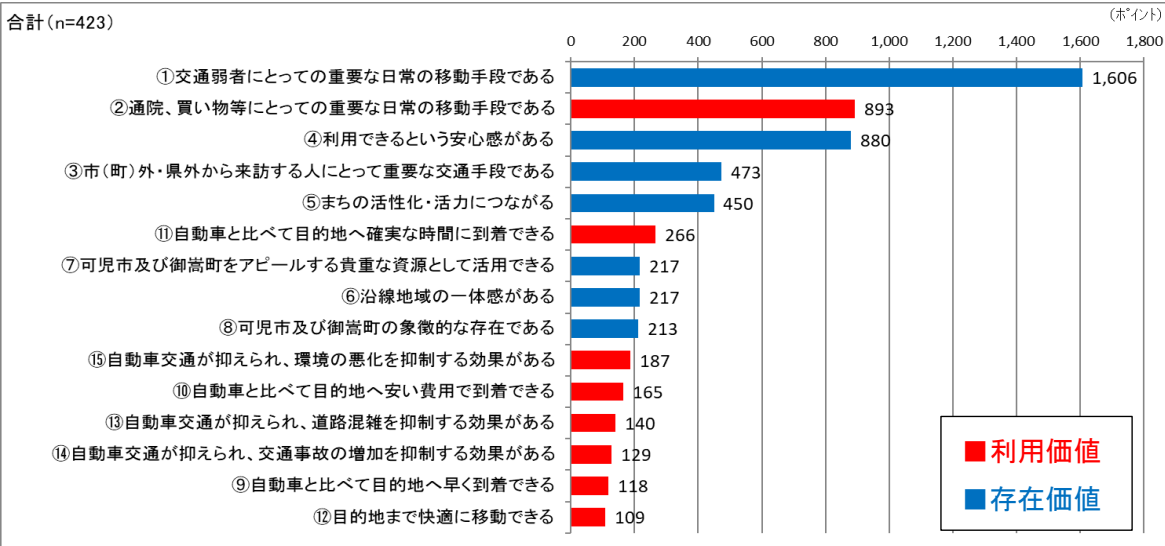
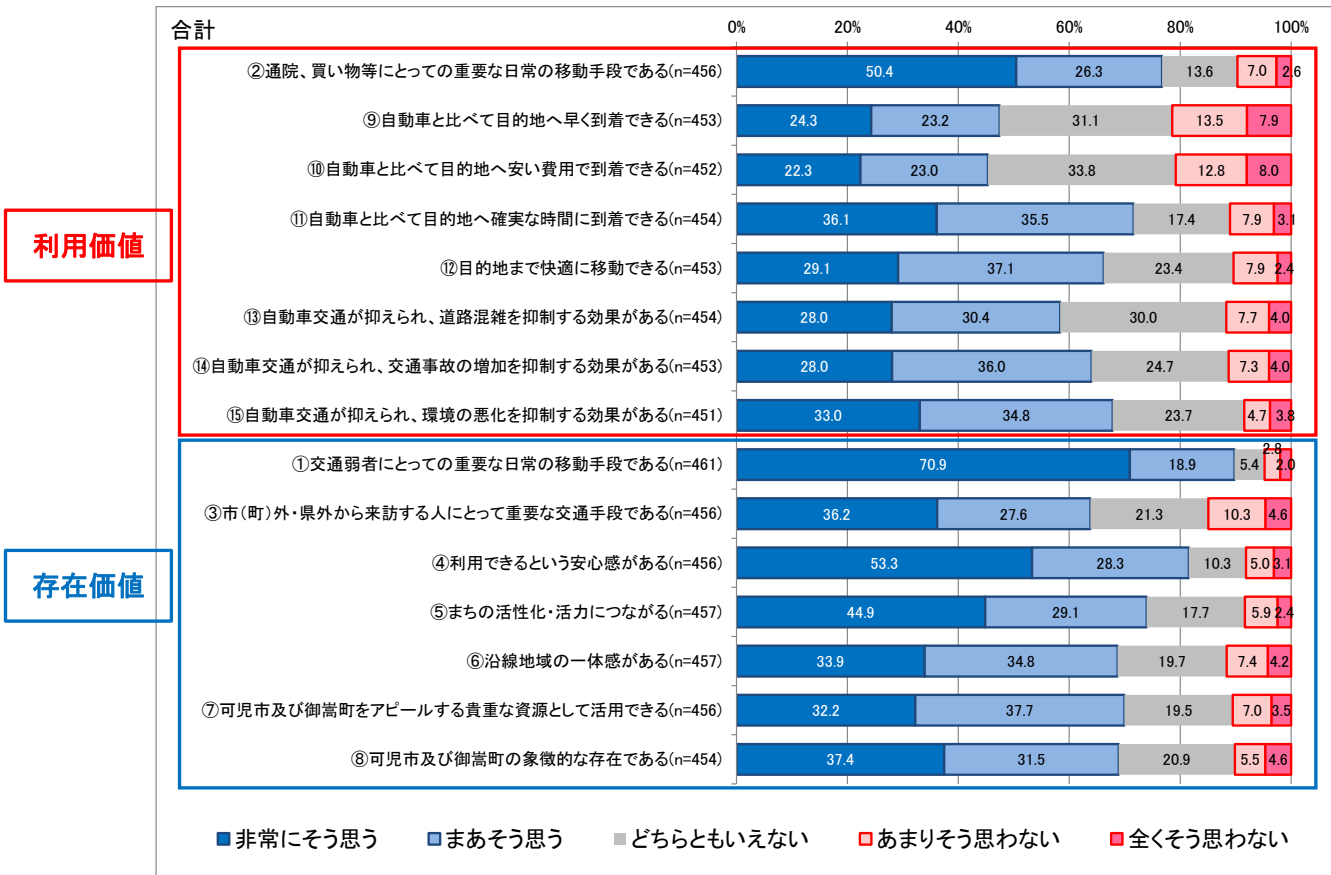
*以下「広見線」とします。

調査対象 可児市及び御嵩町の居住者
 実施日 平成 29 年 8 月
 配布数 3,400 件（可児市 1,700 件 御嵩町 1,700 件）
 回収数 1,083 件（回収率 31.8%）

1 広見線の価値について

➢沿線住民の方が感じる広見線の価値は、「利用価値」に比べて「存在価値」の効果項目において価値意識の割合（非常にそう思う+まあそう思う）が高くなっています。
 ➢特に、「交通弱者にとっての重要な日常の移動手段」（約 90%）「利用できるという安心感」（約 82%）などの存在価値について重要と感じています。

図-1 広見線の重要度（利用価値・存在価値）



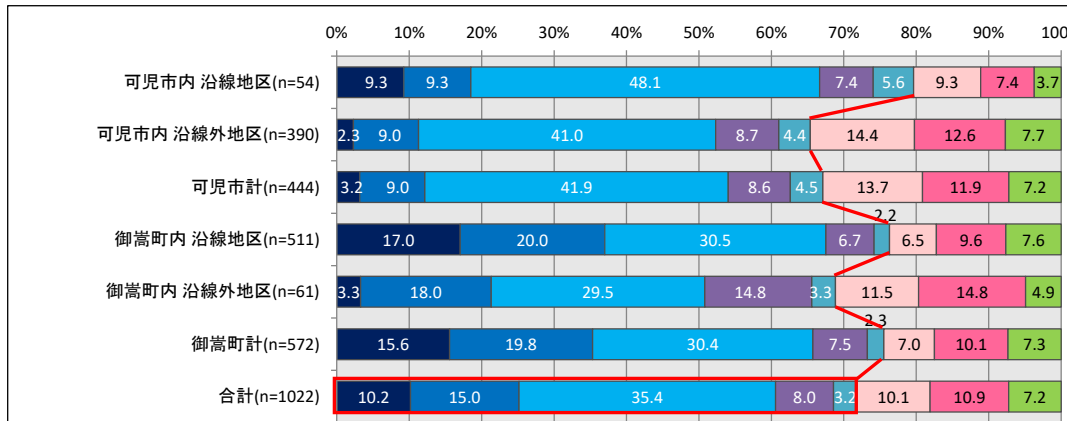
重要度ランク

*重要度が高いと思う項目5つを順位づけし、5段階(5点~1点)で点数化したもの

2 広見線の今後の運行継続のあり方について

- 今後も「運行継続は必要」とする割合は、合計で約 72%を占めています。(前回調査結果同様) 各市町の沿線地区に対して沿線外地区の割合は低下するものの、多くの方が運行継続を望んでいます。
- 運行継続は必要とする理由は、広見線の価値を反映し、「自動車を運転できない子どもや高齢者(交通弱者)にとって重要な交通手段」が最も多くなっています。

図-2 広見線の今後の運行継続のあり方



運行継続は必要とする割合

- 約 80% (約 74%)
- 約 65% (約 64%)
- 約 67% (約 65%)
- 約 76% (約 79%)
- 約 69% (約 63%)
- 約 76% (約 78%)
- 約 72% (約 71%)

() 内は H26 調査結果

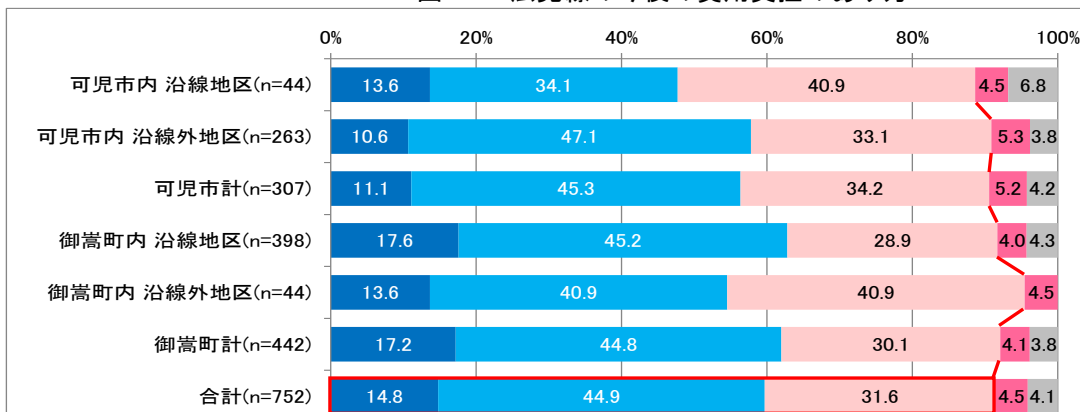
運行継続は必要

- 自分自身にとって重要な交通手段であるため、今後も運行継続が必要
- 現在は利用していないが将来利用する可能性があるため、今後も運行継続が必要
- 自動車を運転できない子どもや高齢者にとって重要な交通手段なので、今後も運行継続が必要
- まちを活性化していくためには重要な交通手段なので、今後も運行継続が必要
- バスで代替した場合、所要時間は長く、運賃は高くなるので、今後も運行継続が必要
- 利用者数の減少に歯止めがかからないのであれば、運行継続の必要はない
- 市町の運行支援が増大するのであれば、運行継続の必要はない
- どちらともいえない

3 広見線の今後の費用負担のあり方について

- 今後も「費用負担は必要」とする割合は、合計で約 94%を占めています。(H26 前回調査約 90%) ただし、「利用者を増やすことで収入を増やし、市町の費用負担を軽減すべき」の割合が、前回調査結果と比較して合計で約 10 ポイント (H26 22%→H29 31.6%) 増加しています。
- 一方、「負担してまで運行を継続すべきではない」は、約 5% (同調査約 7%) となっています。(御嵩町沿線外は H26 約 18% → H29 約 5%)

図-3 広見線の今後の費用負担のあり方



費用負担は必要とする割合

- 約 90% (約 93%)
- 約 93% (約 89%)
- 約 93% (約 89%)
- 約 95% (約 91%)
- 約 98% (約 77%)
- 約 95% (約 90%)
- 約 94% (約 90%)

() 内は H26 調査結果

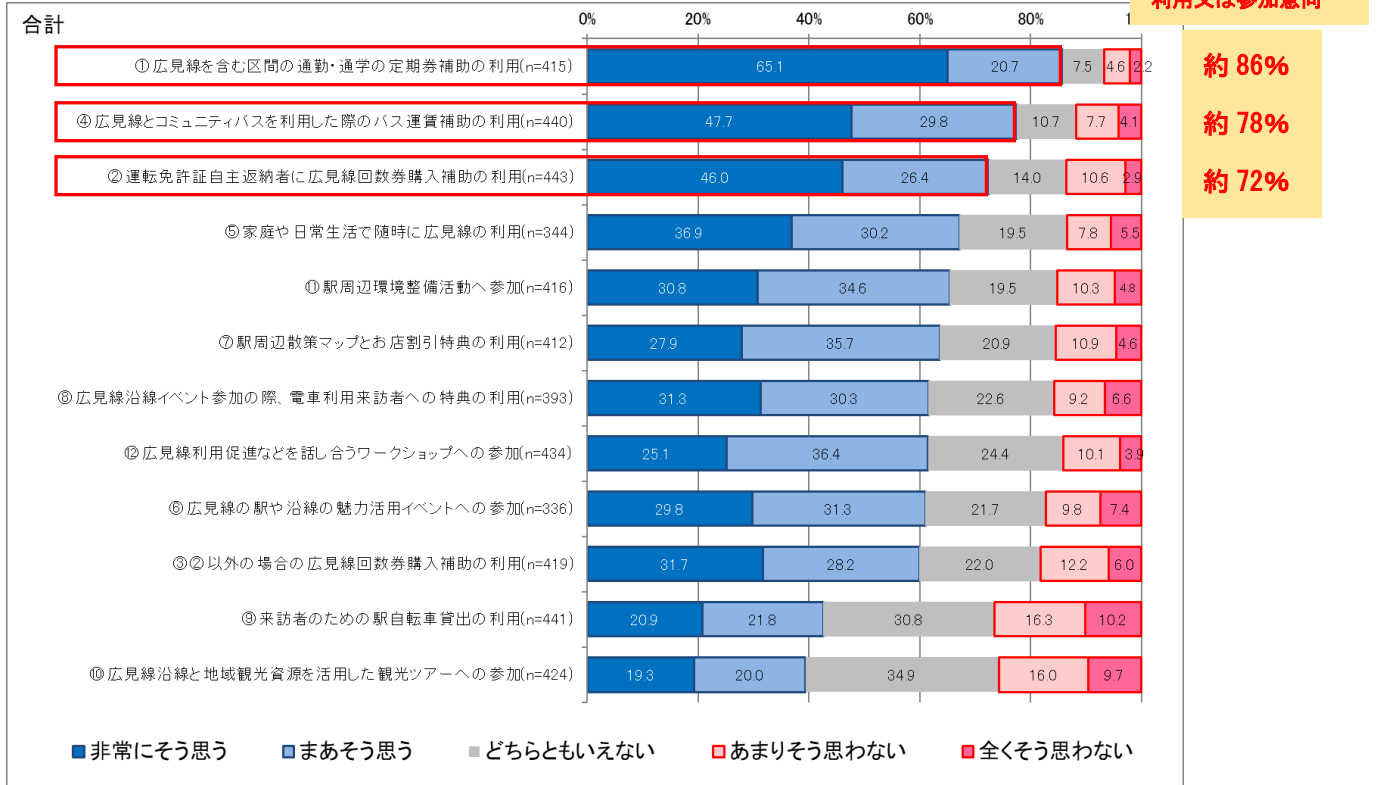
費用負担は必要

- 名鉄広見線を今後も運行継続するためには、市町の費用負担(税金)を増やしてもよい
- 今と同程度の市町の費用負担(税金)であればよい
- 利用者を増やすことで収入を増やし、市町の費用負担(税金)を軽減すべき
- 市町が費用負担してまで運行を継続すべきではない
- その他

4 利用促進策の今後の利用又は参加意向について

➤ 広見線利用促進策への利用又は参加意向の意識が高い（非常にそう思う+まあそう思う）項目は、「広見線の通勤・通学定期券補助」（約 86%）といった広見線自体の利用に関する意向が高く、次いで「バス運賃補助」（約 78%）といった広見線の 2 次交通となるバス交通施策や「運転免許自主返納者への補助」（約 72%）など広見線の利用への意向の順となっています。また、「家庭や日常生活で随時に利用」（約 67%）や「駅周辺環境整備活動へ参加」（約 65%）なども意向が高くなっています。

図-4 利用促進策の今後の利用又は参加意向

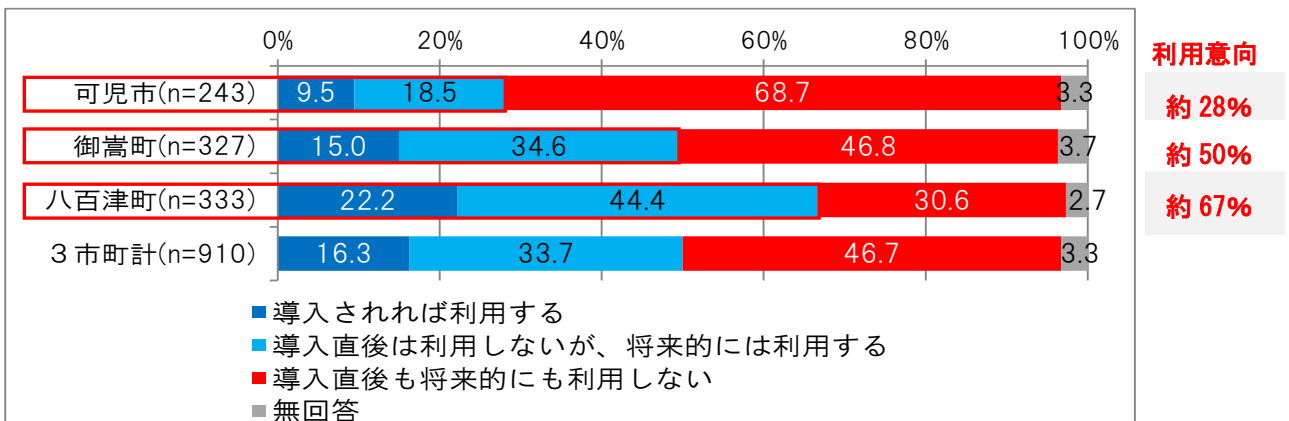


<参考> 1 広域バス路線の利用意向について（既往調査より*）～2次交通施策充実の可能性～

* 「名鉄広見線とバス交通の連携向上による広域交通網形成に関する基礎調査業務」岐阜県地域公共交通協議会 H28.3 より

➤ やおつトンネル開通に伴う広域バス路線が導入された場合の利用意向は、可児市約 28%、御嵩町約 50%、八百津町約 67%と、八百津町及び御嵩町で利用意向が見られます。

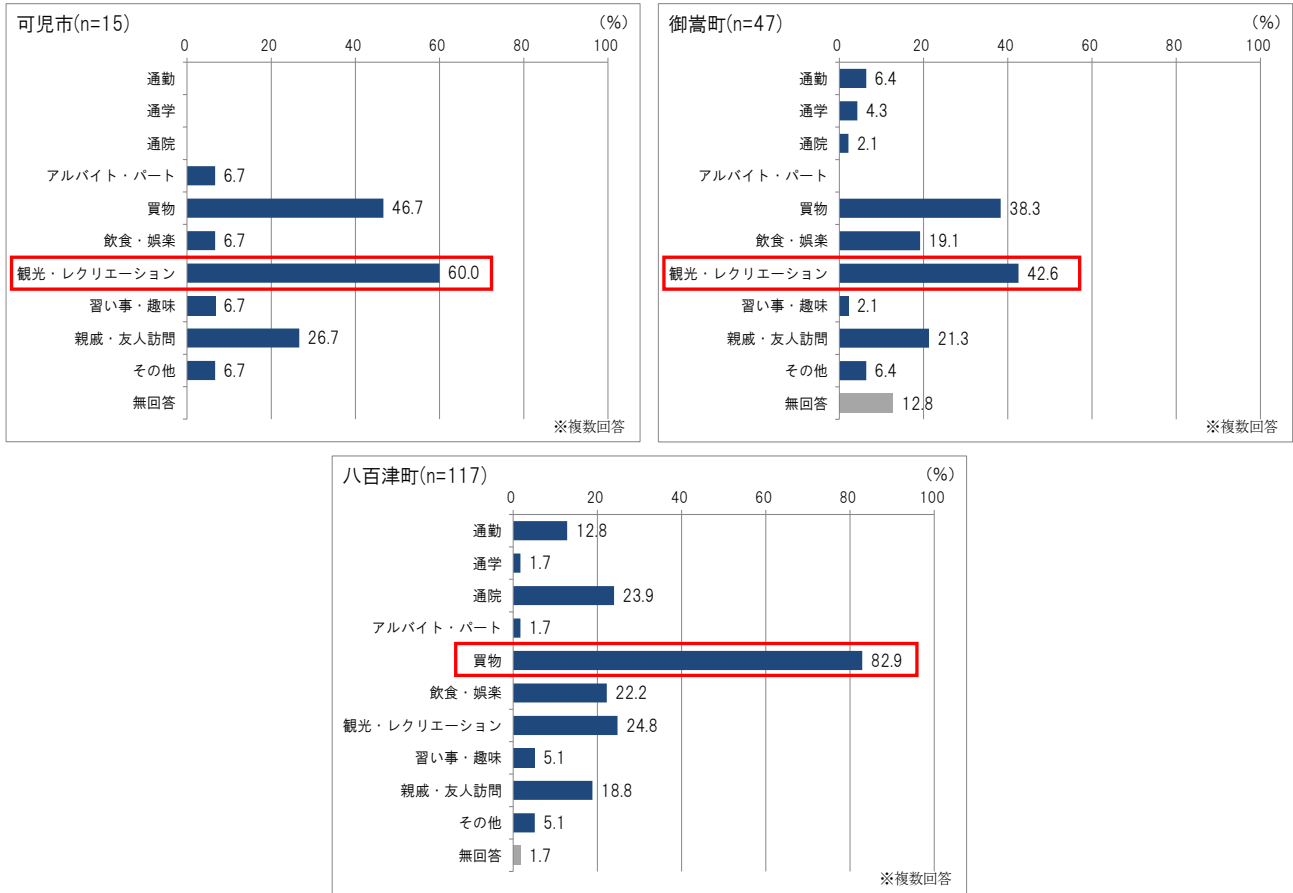
図-参考 1 利用促進策の今後の利用又は参加意向



<参考> 2 広域バス路線を利用したお出かけの目的について（既往調査より）～2次交通施策充実の可能性～

▶ 広域バス路線を利用したお出かけの目的（予定）は、可児市及び御嵩町では「観光・レクリエーション」目的が多く、八百津町では「買物」目的の利用が多いことから、多様な目的での利用が期待されています。

図-参考2 広域バス路線を利用したお出かけの目的



5 運転免許を自主返納しようと思う年齢と自主返納後に利用したい交通手段について

▶ 昨今、高齢者の交通事故が多発する中、運転免許証の自主返納について、「80歳以上」又は「今のところ返納する気はない」が、合計で約70%となっています。

▶ 運転免許証の自主返納後に利用しようと思う交通手段は、可児市では「バス」が約21%、御嵩町では「鉄道」が約22%と公共交通の利用となっています。

▶ 一方、「家族などの送迎」が合計で約21%となっており、家族などへの負担が増えることが考えられます。

図-5 運転免許を返納しようと思う（した）年齢

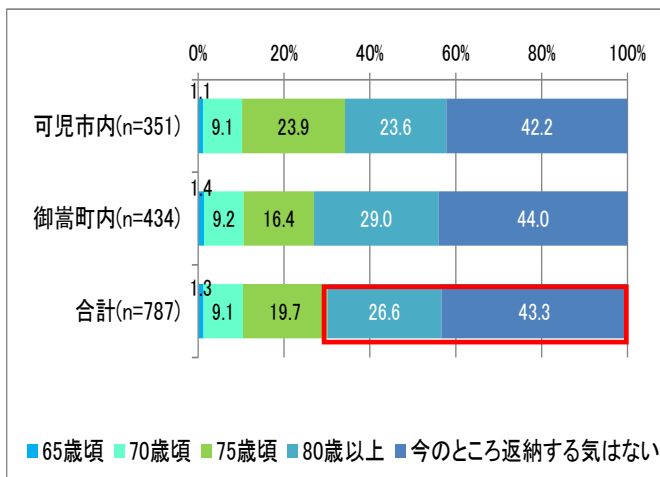
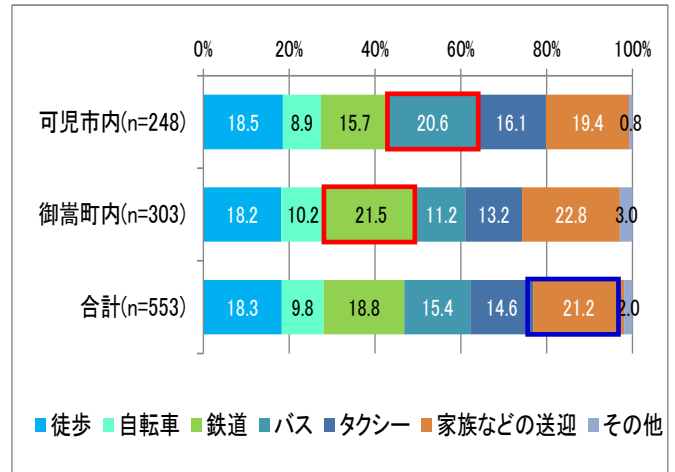


図-6 返納後に利用したい（している）交通手段



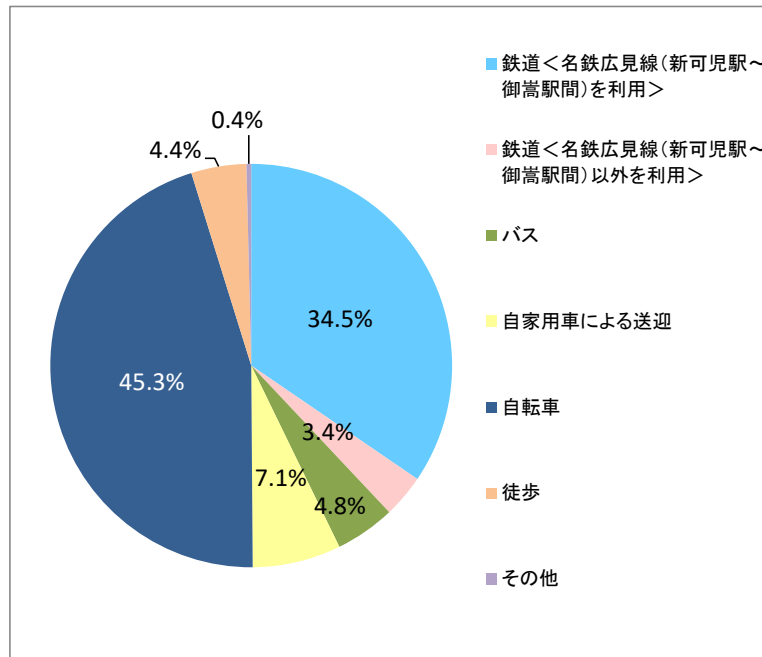
名鉄広見線（新可児駅～御嵩駅間）*1に関する高校生アンケート調査結果の概要

調査対象	東濃高校、東濃実業高校、八百津高校 3校の1年生～3年生までの在校生				
実施日	平成 29 年 7 月				
配布数	東濃高校	323 人	回収数	東濃高校	292 人 (回収率 90.4%)
	東濃実業高校	710 人		東濃実業高校	692 人 (回収率 97.5%)
	八百津高校	348 人		八百津高校	336 人 (回収率 96.6%)
	計	1,381 人		計	1,320 人 (回収率 95.6%)

1 主な通学手段について

➤沿線高校の主な通学手段は、「自転車」が約 45%（H26 調査結果約 48%）と最も多く、次いで「広見線（当該区間）」が約 35%（同約 29%）となっており、H26 年度調査結果と比較して、「広見線（当該区間）」の利用割合が増加しています。

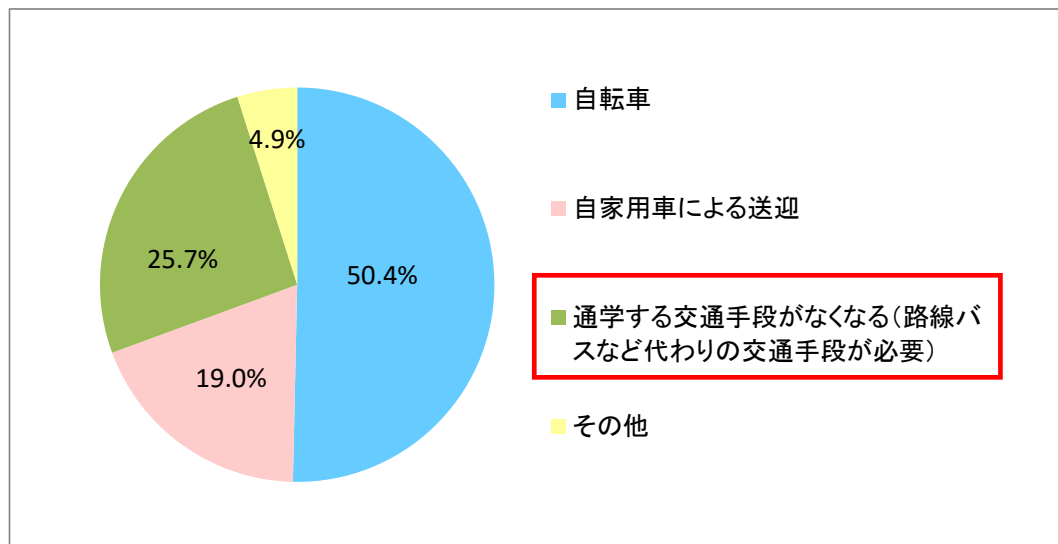
図-7 主な通学手段



2 広見線がなくなった場合の通学手段について

➤広見線がなくなった場合の通学手段は、「自転車」が約 50%（H26 調査結果約 44%）と最も多く、次いで「通学する交通手段がなくなる」が約 26%（同約 26%）となっており、約 4 人に 1 人は通学手段の確保が困難になることが予想されます。

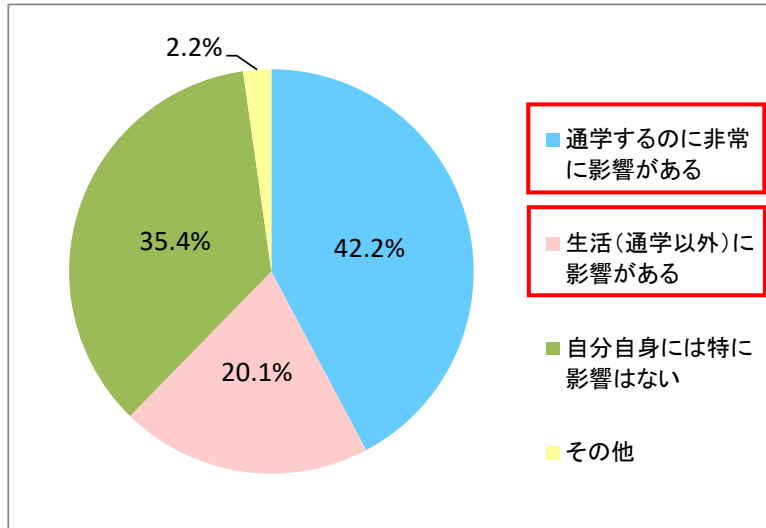
図-8 広見線がなくなった場合の通学手段



3 広見線がなくなった場合の影響について

➤ 広見線がなくなった場合の影響は、先の「通学する交通手段がなくなる」といった回答を反映し、「通学時に非常に影響がある」が約 42%（H26 調査結果約 34%）や「通学以外の生活に影響がある」が約 20%（同約 24%）となっており、合わせて約 62%（同約 58%）の高校生に影響を及ぼすとしています。

図-9 広見線がなくなった場合の影響



4. 広見線の今後について

➤ 広見線の今後について、「私たちや後輩たちのためにも運行を続けてほしい」が約 78%（H26 調査結果約 72%）と多くを占めています。

➤ 一方、「運行は続けなくてもよい（「代替交通手段があれば」も含む）」が約 10%（同約 13%）となっています。

図-10 広見線の今後について

